

# 消費者と生産者をつなぐ「赤とんぼ米」

～赤とんぼが育つ米作りを通じて、持続可能な農業をめざす～

箕浦正人（豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課）

【平成29年12月22日掲載】

## 【要約】

特別栽培米の「赤とんぼ米」は、豊田市の中山間地域において、赤とんぼが生息しやすい条件を整えながら栽培されている。豊田・みよし環境保全型農業推進協議会は、赤とんぼ米の生産と普及を通じて、赤とんぼが舞う景観や水田づくりと中山間地農業の維持・発展を支援している。

平成27年に6戸、1haで始まった取組は、平成29年には20戸7.4haに広がった。

協議会では、親子ふれあい農業体験の実施、認証委員会による栽培状況の確認、赤とんぼ米友の会の活動などを通じて、消費者の環境保全型農業への理解を深めている。

## 1 はじめに

豊田市の中山間地域において、あいち豊田農協や地元生産者から「秋の黄金色の稲穂の周りに、たくさんの赤とんぼが舞う昔ながらの風景を未来に伝えたい。」との声があがったことを受け、平成27年から「赤とんぼ米」の取組が始まった。この取組は、生産者と消費者が協働で水田を維持することを理念としている。栽培農家は、環境負荷が少ない米作りを通じて田んぼの生態系を復活させ、赤とんぼが舞う景観や水田をつくり、消費者は、「赤とんぼ米」を購入し、持続可能な環境保全型農業を支援する仕組みとなっている。このような、赤とんぼが育つ米作りの取組を紹介する。

## 2 産地概要

豊田市は、県内で最も広い市であり、平坦地域から中山間地域まで抱えている。平坦地域は、愛知県有数の水田地帯であり、大規模経営体を中心に水稻、小麦、大豆のブロックローテーションによる効率的な栽培が行われている。一方、中山間地域ではほ場や気象条件の制約により中小規模で水稻単作の農家が中心となり、中山間地域に適した良食味米である愛知県が育成した品種「ミネアサヒ」を栽培している。

## 3 豊田・みよし環境保全型農業推進協議会の取組

あいち豊田農協、豊田市、みよし市、愛知県で構成する、豊田・みよし環境保全型農業推進協議会（以下「協議会」という。）が、「赤とんぼ米」の生産と消費拡大に取り組んでいる。

### （1）「赤とんぼ米」の生産

協議会は、節減対象となる化学農薬の使用回数及び化学肥料の窒素分量を愛知県慣行基準の5割以下で栽培した「ミネアサヒ」の生産を農家に呼びかけた。平成27年に6戸、1haで栽培が始まった取組は、平成28年から特別栽培米「赤とんぼ米」として販売されるようになった。その後、「赤とんぼ米」に賛同する農家が増え、平成29年には20戸7.4haに広がった。現在、豊田市の下山、松平、足助など8地区で栽培されている。

「赤とんぼ米」の栽培方法には以下の3つの特徴がある。

- ・水生昆虫に影響の少ない育苗箱施薬剤を用いる。
- ・とんぼの幼虫であるヤゴが羽化しやすい条件とするため、中干しを通常より1週間遅らせる。
- ・赤とんぼ「アキアカネ」が産卵できる場所を確保するため、稲刈りが終わった後に、もう一度入水して水たまりを作る。

これらの栽培方法及びほ場管理により赤とんぼが生息しやすい条件を整えている。

## (2) 消費者とともに進める活動

協議会は、平成28年度から毎年、「赤とんぼ米」を通じて消費者の環境保全型農業への理解を深めるため、親子ふれあい農業体験として田植え（5月）、生き物観察会（7月）、稲刈り（9月）を開催している。生き物観察会では、赤とんぼやホウネンエビなど数多くの生き物が観察されている。

また、平成28年度に、協議会構成機関と消費者代表で構成する「環境保全型農業認証委員会」と、赤とんぼが育つ米作りの応援者で構成する「赤とんぼ米友の会」を設置した。「環境保全型農業認証委員会」では、「赤とんぼ米」の安全性と信頼性を検証するため、生産者から提出された自己点検チェックシートで栽培管理方法を確認するとともに、畦畔管理、看板設置、収穫後の水たまりの確保状況を確認している。「赤とんぼ米友の会」は会費無料で誰でも加入でき、会員には会報や農業体験イベント案内が送付される。また、希望する人は宅配による赤とんぼ米の定期購入もできる。

「赤とんぼ米」は、通常は農協の産直プラザ、グリーンセンターで販売されている。現在、29年産新米は450円/玄米kgで販売が始まっている。（問い合わせはあいち豊田農協まで。赤とんぼ米リンク<http://www.ja-aichitoyota.or.jp/topics/17488>）



生き物観察会



認証委員会による現地確認

## 4 おわりに

中山間地域では、傾斜地が多く効率的な営農ができないといった理由から、担い手の不足や耕作放棄地の増加が進んでいる。協議会は、自然豊かな地域の特長を活かした「赤とんぼ米」の生産・普及を進め、中山間地域の農業の維持・発展につながるよう活動を継続していく。